

22/5/22 名古屋城石垣部会  
名古屋市民オンブズマンによるメモ

大手マスコミ記者ゼロ

13:00

鈴木：始める

上田剛：4月から所長  
休日の中ありがとう  
昨年7回  
今年度も魅力向上、保存、活用  
議題 舟運など4つ

鈴木：着座で説明  
出席者紹介  
北垣、宮武、西形、梶原  
赤羽、千田、オブザーバー山内は欠席  
写真・ビデオここまで

北垣：舟運について

13:06

吉田：管理活用課  
1 水堀の概要  
2 舟運の概要  
3 船着き場ボーリング調査  
4 今後の予定

いはし：調査研究センター

吉田：水堀の現況  
年間138万<sup>m</sup><sup>3</sup>  
護岸改修工事  
人工地盤12.5m×2.5m  
舟運の概要  
浮き栈橋の予定

## ボーリング調査

13:29

鈴木：資料番号がずれていた

北垣：ご意見は

宮武：今までなかった企画  
ポジティブから入っていかない  
全体整備会議で諮っているのか

吉田：示した

宮武：内容は  
全体整備会議でなにを検討したのかわからないと  
もろ手を挙げて賛成か

吉田：決してそうではない

宮武：どうしてそういうことを説明しないか  
ご意見は

吉田：全体では、2回相談した  
1回目 今年3月4日  
概要とボーリング実施→歴史的経緯、辰ノ口遺構、水質 追加を  
2回目 今年5月13日 説明した

宮武：その内容は

吉田：資料に明記がなかった  
水路、経路 どのようなポイントがあるのか  
史実、残っている遺構はないか  
→調査が至っていない  
水堀景観 石垣植栽指摘  
除草、除伐必要では？→植栽管理計画策定中

宮武：1問1答

普通 こういうことをしたい  
いきなり辰ノ口説明  
全体の不足分を説明しているのがわかった  
GOサイン確定→おろして  
部会で猛反対していいのか  
全体でGOサインとは聞こえない

鈴木：補足

全体で最初にこの事業 なんのため？  
それが妥当か 議論はした  
なぜやるか？堀の活用 船を浮かべてなにを見るか  
石垣、隅櫓、天守など  
船着き場 辰ノ口の遺構  
横から見ることで普段見えないものが見えない  
全体「しっかり検討するように」  
部会でテクニカルな面 人工地盤の上に船着き場  
埋蔵文化財 意見を聞きたい

宮武：貴重な時間 委員

部会というのは、全体にぶら下がっている  
瀬口座長から「検討しなさい」降りていない  
テクニック できるできない 越権  
親会議が固めて、総合計画載っていて、年次展開  
どこをどうする なっていない 突然出てくる  
議論検討するため 守るべきルール  
専門分野 江戸時代 舟周遊はない  
辰ノ口 水利  
福岡の城 水郷 実績があるから  
城の堀 本来 人が入ってはいけないところ  
歴史的な裏付けはなにか？ない  
「ないけどやります」  
活用計画 水堀での周遊 どれくらいの船を浮かべるのか  
柳川 7-8人  
これは屋形船？  
ボートで？石垣刻印  
屋形船なら刻印見れない  
公有水面か？所有権は？登記上どうなっているのか

国有の上 やれるのか

そもそも場所を置きたい 人工地盤 何のために作ったのか

4 ページ 施行しようとする人工地盤

これ自体の構造がわからないと

設計案 9 ページ 浮き栈橋 海でやったが、コンクリートケーソンでかい

掘削 現状変更届の対象

アンカー 投げ捨てになる

施設がなくなっても撤収せず

巨大なもの回す 保存活用計画にうたっているのか

現実的 景観的歴史的な存在しなかった

ボーリング調査

コンクリート塊 10 か所

文化庁に現状変更通したい 整理して

非現実的

吉田：人工地盤 平成 10 年度

護岸 長さ数メートル矢板 覆っている

辰ノ口 長さ 4 メートル 回して埋まっている

宮武：対岸に石垣眠っている？

村木：水堀外側石垣 辰ノ口 石垣変えなかった

宮武：埋戻し？

村木：元のものが残っている

吉田：アンダーブロック

宮武：水抜いてか？

潜水土が入れない

吉田：算定したら陸上側 7.73 トン

沖合側 15.15 トン

面積多いブロック 遺構への影響をとどめたい

宮武：舟は何人乗り？

吉田：12人

宮武：プレジャーボート

吉田：栈橋 30メートル

宮武：12人乗りどころじゃない

吉田：詳細は把握していない  
想定は12人乗り

宮武：趣旨は悪くはない  
やろうとしていることが景観、遺構保全、  
維持管理、ランニングコスト 見合うものか？  
サイズスケール もうちょっと議論が軽くないか  
上の全体整備で検討中  
スケジュール 向こうの会議で検討 それを部会に示して

北垣：項目3つ残っている  
すでに時間オーバー  
当面の喫緊の課題 もう一度  
全体会議で検討を 生煮え  
親委員会に持っていく

吉田：整理する

北垣：整理不足  
広範囲にわたる課題が多すぎる  
資料1 親委員会で再度検討を  
2点目 本丸搦め手石垣

13:51

鈴木：搦め手馬出石垣  
文化庁と共有している

西本：調査研究センター  
今年度行う調査について説明  
資料2 赤枳 暗渠

13:58

北垣：質問は

梶原：前掘ったところをまた掘って確認するのか？  
掘った門の場所は分かるのか

西本：遺構が確認できなかった  
門の復元というより、石垣の枡形、虎口  
コーナーの石垣をどう来場者に見せるか

梶原：どう見せるか？場所がわかれば復元石垣を組む？

西本：そう

梶原：確認するのはよい  
門の場所が分かればいいのだが

北垣：ほかには

宮武：図面の向きは統一してほしい

西本：コーナー

宮武：根石の高さが違っている 写真2

西本：前に出ている

宮武：後ろに続きがある？

西本：掘っていない

宮武：はっきりしない  
やっぱり必要

図3 トレンチの幅が狭い  
地表から1メートル  
前 広げた方が検証がしやすい  
門がかぶる  
作業のやりやすさを考えて

鈴木：写真1 口は残っている  
先を調べたい

宮武：掘りすぎ  
がつつり下げた  
レベル

北垣：事務局 理解できたか

西本：大丈夫

鈴木：搦め手馬出報告

いしくさ：保存整備室  
★資料配っていない  
新補石材調査報告  
解体した4393石 80石程度が再利用不可  
幡豆 51  
岩崎山 16  
山陽帯 9  
養老 3  
美濃帯 1  
同様の石材 恵那産  
中津川市 蛭川みかげ石

鈴木：調査の中間報告 画面で報告した

14:14

北垣：1 石積み調査案件  
2 新補石材  
全体に回して

10分休憩後再開

鈴木：2：25 再開

14：25

北垣：再開

穴蔵石垣背面調査

名古屋城：去年7月9日 全体 根石周辺試掘調査諮った

「根石だけでなく背面も調査を」

部会です承いただければ全体で説明する

資料3 目的

根石周囲 江戸期と判断できる遺構の残存状況などが把握できている

背面 まだ

調査位置

現天守解体後はあらためて調査したい

北垣：資料3

午前中 現場にはじめて行った

ほかの先生 それぞれ現場に行って 厳しい環境の中検討 やりかけている

脚立 地下に入っていく

1回行ったくらいでは 厳しい現場

調査をされてきた

検討できたよう

構成員 西形、梶原 2回目行った

それなりの知見 ありがとう

本日出席 欠席赤羽、千田 現場を見ている

どのような審議をしていくか

意見をいただいている

次回本人から回答してもらおう

出席委員から 途中 すっきりした回答難しい

これから全員の先生 調査を進めていい いただいている

のっとしてご意見があれば

得られたものを全体に報告する

西形：あらためて現場に行った

詳細にご説明いただいた



昭和の天守閣 積んだ石垣と栗石

近世の石垣とはわけて

見せていただいた 環境がよくない 共通の意見

昭和のほう できる範囲で状況調べる可能かな

近世 慎重な作業が必要 細かい作業ができるか？

近代にやられた 栗とっていいのかわからない

工事がどのようになされたかはわかるだろう

栗石の粒形 調査してほしい

昭和の栗 栗として積まれているか？基本的なところ

栗といえないものが積んである

栗として積まれたものをやってほしい

3-2 ③ 栗らしいものがある

石が見えた

近代にやられた方 栗の状況を調べて

密度まで取れるか難しいところ

調べていただきたい

昭和の改修 コンクリート 土留めとしてやられている

今の時点で調べられるか

どれくらいの大きさ どれくらい入っているか

石垣の中に入っている 薄い穴蔵石垣に

プラス側に寄与する？マイナス側？

残置するかしないのか

大きさ なんとかならないか

現段階 難しいのかも

近代領域の中で、昭和の工事がどんなようになされたか

北垣：ほかに

梶原：調査予定地拝見した

床下調査 劣悪環境

作業員安全最優先で

地下遺構 残存状況 文化財と、昭和石垣 安全状況 ミックス

トレンチ 抽出が異なる

6つトレンチ 同じように掘る必要はない

みあった掘り方をして

小天守 おそらく1メートル掘っても近世は出てこないだろう

大天守 外側 一部近世残っている可能性

天端の石 意味があると思う  
調査区、掘る深さ 当初からこだわりを持ちすぎないように  
安全性最優先で

村木：ありがとう  
調査研究センター＋委託業者で調査  
環境が悪い 注意してやっていきたい  
無理をすると遺構に悪影響を与えかねない  
できる限り慎重に

北垣：ほかに

宮武：村木さんから話があった  
センターの中で議論が済んでいるという前提  
調査1～6 センターのセクションが決めたのか  
場所と規模

村木：センターと名古屋城とで決めた  
上からの調査 できることは限られている  
目的と合わせて

宮武：①と② 事前のトレンチ どちらの壁と一致していない  
障害物があるからか

村木：①と② 現実的  
①外側根石 いけていない 背面はできる限りで  
前面調査まではいけない

宮武：調査のイメージがおかしい  
目的が根石レベルでは考えていない  
壁通して土層みれない どうしてT字にしたか  
実際に掘る人 ここができるのか 何をイメージ  
どういうイメージ 到達と議論したか  
整備室主導「ここやりたい」不健全  
センターの技師

村木：場所は意見を言った

上がある 現況調査 天端から相当まで改変  
確認できるところ

宮武：イメージできていない

どうして調査をすることになったのか

当初計画ではない

ここの文書があいまい

これまでの現況調査 写真 データを再分析

かなり不安定になっている

無茶苦茶な工事 背面、昭和石垣 不安定

この1年でわかった

これを検証するため調査

もともとなんのため？

不安定要素は？

届かない 斜めの勾配

内側石垣入れるためかきとってる

発想自体目的を逸している

もともと残っている裏栗と、削り取った栗

適当に入れた石垣

描いているのか

「下げきれません」考えていない

そこを想定しないと事故になる

ここを下げて何するか

最初の目的 なんのため？後付け 後付けの知見

千田先生「埋戻し 撤去したもの 流し込むだけでいいのか？」

不安定要素 流し込むだけでいいのか

現状変更回復 文化庁に出さないと

掘削した後どうするか

村木：穴蔵石垣工事の記録 斜めに遺構積み替えた

ここを掘れば斜めのプランが見えてくる可能性 認識

現況調査 内側 下まで石が変わっている

斜め最小限ではない？ 表層

ギリギリまで掘る？のりつけて掘る

斜めのラインがあったとしても見つからない、見つけにくい？

遺構の検出までは厳しいのでは？

写真の通りかく乱されているのか確認

埋戻し 現状に復帰するという  
元のガラガラでいいのか？議論が十分できていない  
精査したい

宮武：調査員と共有

土 取っておくのか、どうするのか  
プランがでるかどうか  
壁で見る  
壁に沿ってなくてT字なのか  
どこのデータをどうとるか  
このトレンチでいいのか  
壁のトレンチと

村木：実際掘るのはV字  
緑の線と

宮武：わかりました修正しますでいいのでは

村木：大き目にとった

宮武：なんのための部会の議論か  
調査の目的を共有

北垣：きわめて環境が悪いところに入った  
事故を避けないと  
調査員の安全性、健康管理  
こんな現場ない  
電気をつけると、ほこりがまっている  
調査をしていただかないといけないのか  
栗石撤去の話 大変な話  
小天守 立ち上がれない  
調査は実際はできない  
調査の限界があるはず  
大天守 頭がつかえないが、移動ができない  
空気抜き 撤去してほしい  
あくまで調査員 入ってもらわないといけない  
まず環境 整えるか 一番大事

今日はセンター副所長もいるので話した  
ここを調査するよりも、できるところ  
全体的にとらえる切り口ある  
できるかできないか  
紙 このままではできない  
作業して下さる調査員がやめないように  
何時間もいたら仕事できない  
野外の仕事と全然違う  
経験したことがないこと 穴蔵でやっていかないといけない  
しっかり関係者 現場だけではなく専門家  
石に言葉が発せる人 棟梁も  
束になって みたこともない調査をしないといけない  
この会場くるのもぎりぎり  
答えを得られていない  
時間をかけないと  
ポイント 何の調査をどうするのか

宮武：最後に言いたかったこと  
座長言った 「調査する身になってみる」  
熊本城より悪い  
環境悪い、安全性  
不安定要素をおさえないと  
「どうして内側をはずせないのか」  
やらなければいけない  
健全調査を忘れられている  
特別史跡 どう評価するか 避けられる話ではない  
・綱渡り  
・ここの健全性  
内側石垣の評価を避けていたらどうもならない

西形：今やらないといけないなら、この領域に限らない  
環境のこと  
やれること 黄色に塗ったところ はしっこだけ  
昭和の時になにをやったか  
内側穴蔵石垣 安定性をどこかで考えないと  
あとでもいいのでは？  
今現在必要なある程度精度の高い調査 無理

外せる状況でない  
何らかの調査やるなら、その範囲だけ  
昭和でどんなことが行われたか把握するだけ

村木：ご意見伺った  
裏側調査必要性 ご理解いただいた  
どうやってできるか まだご意見いただいたところ  
必要性 全体でも指摘  
やり方 また検討したい

北垣：親委員会への報告はどうするのか

宮武：昨年7月9日 全体で諮った  
危険と分かったのはそのあと  
時系列で並べないと  
判断根拠 去年7月と一緒にとおかしな話に

北垣：親委員会に諮るとしたら、検討した いっぺんにはできない  
整理していただいて  
いろんなことを検討  
ややこしい部分 整理して

上田：先生方 ご専門見地 考えが至らないところ るるご指摘  
勉強になった  
石垣背面調査 いろんな課題がある  
安全性、石垣安定性  
どのような位置づけになっているのか  
全体会議の中で手法 専門ではないが「調査はやって」  
課題までは全体で議論していない  
昨年7月 ざっくり方向性  
その後の調査を踏まえて本日ご指摘 あきらかになった  
ご指摘を踏まえて再度予算、時間の制約 どう調整して  
背面確認できるか 調査方法 再度  
センターが中心となって検討したい  
その結果部会の先生意見を全体会におろしたい  
このやり方はともかく、背面調査やることはご理解いただいたということか

北垣：全委員が調査をすることは了解  
そのあとは課題がいろいろある  
上田所長のもとで整理して  
部会に出して  
よろしく  
あと1つ議題  
3番のこと なかなか答えがでるものではない  
今日はこれでご理解を  
最終の第4 報告 穴蔵石垣調査成果

15：17

いはし：穴蔵試掘調査の説明  
⑥以外調査した  
すべての調査区で近世遺構を検出

北垣：時間超過  
新しいことは

村木：すべてはじめて報告

いはし：主要な調査  
石列 近世のもの 3石  
④石樋  
小天守省略  
遺構の性格 不明  
石列追加情報を得たい  
追加調査の目的と方法

15：27

北垣：ご意見は

梶原：1 ページ  
近世盛土、近世石列、白色粒混じり土

いはし：図3 近世盛り土を切って石列ではないか  
隙間に白色土

梶原：調査拡張

トレンチの壁はつなげた方がいい  
前提に上側壁の位置も考えては

北垣：ほかには

宮武：調査に当たっては手心を加えずに

止めてみたりとか

文化庁と相談して

近世の盛り土 くりぬいて昭和石

思い切ってきらないといけないかも

図4 一番下のあごの部分 達しているのか

先行近世盛り土を

上で止めるとわからない

文化庁にあって、落としたほうがいいのかも

木を見て森を見ず

「天守台の中に、オリジナルの遺構がある」

事故があってはまずい

やるときは思い切って

いはし：承知した

北垣：ご検討いただいて、成果をだして

時間が超過した

だいたい4項目 検討していただいた

いろんな課題 よろしく

鈴木：ご議論いただきありがとうございます

30分ほど超過

アドバイスを受け止めて検討

これで終わり

15:33